

令和5年度上大久保中学校だより

上中だより

第7号

令和5年11月1日(水)発行

学校教育目標

「温かい学校 感動あふれる学校」

さいたま市立上大久保中学校

〒338-0824 さいたま市桜区上大久保861-1 TEL.855-3901

<http://kamiokubo-j@saitama-city.ed.jp>

心ひとつに!!

校長 ^{たかく}高久 ^{まさゆき}正行



9月の体育祭に引き続き、上中最大の学校行事の一つである「合唱コンクール」が10月28日(土)に開催されました。全校生徒が体育館に集合しての合唱コンクールは4年ぶりで、スローガン「威風堂々～温かい歌声で感動を届けよう～」をまさに体現した行事となりました。多くのご来賓、保護者の皆さんに鑑賞していただき誠にありがとうございました。合唱は、一人ひとりが大きな声を出せばよいわけではなく、それぞれのパートの音程をしっかりとること、歌の歌詞に込められた意味を思い浮かべながら表現豊かにハーモニーを奏でること等、一つの楽曲を仕上げるまでかなりの練習量が必要です。各クラスの実行委員、指揮者、伴奏者の生徒がリーダーシップのもと、クラス全員の気持ちが一つになるために、お互いに声を掛け合いながら何度も何度も歌ったことでしょう。その成果が、合唱コンクール当日に十分発揮されたと思っています。1年生の一生懸命歌う姿勢、2年生の合唱の楽しさを感じさせる姿勢、3年生の自分たちの合唱を見てくださいという姿勢は、温かい歌声とともに感動を届けてくれるものでした。

先日、フリーアナウンサー 工藤 三郎氏の講演を聴く機会がありました。工藤氏は長年スポーツ実況(1998年冬季長野オリンピック スキージャンプ団体戦での「立て、立て、立ってくれ」の実況でも有名)に携わってこられた方です。この講演の中で、工藤氏の個人的な意見としながらも、夏の全国高等学校野球選手権で昨年度優勝した仙台育英高校、本年度優勝した慶応高校を例に挙げ、勝利至上主義からプロセス主義に高校野球が変わってきているというお話がありました。以前は、とにかく勝つことが最も重要視されてきた指導であったものが、選手同士が話し合いを重ねながら練習を行うなど、目標に向かっていくプロセス(過程)を大切にするように変わりつつあるのではないかというものでした。このプロセス主義を実践している高校が優勝したことで、今後このような学校がもっと増えてくるのではないかともおっしゃっていました。このような生徒同士が自分たちの意見を出し合いながら改善を図る取組は、今の学校生活のいろいろな場面で見られるようになってきたように感じます。今回の合唱コンクールがまさにそれに当たると思います。勝負事ですからどうしても順位はついてしまいます。しかしながら、目標に向けて頑張ったプロセス:みんなが心ひとつになろうと努力を重ねた経験こそが今後の人生に大きな影響を与えるものと思っています。

さて、話題をもう一つ。10月24日(火)に、第23回さいたま市中学校駅伝競走大会が荒川総合運動公園で開催されました。こちらも4年ぶりの通常開催で、走る距離や保護者の参観など一切の制限なしで行われました。市内全63校が、学年や部活の壁を取り払った、まさに各学校の代表として選ばれた選手たちによる男子6区間、女子5区間の壮大なレースでした。10月にしては暑いぐらいの青空のもと、上中駅伝部は男子32位、女子40位という結果でしたが、自己記録を更新した選手も続出するほどの大健闘でした。駅伝といえば、正月の箱根駅伝など多くのファンがおり、今や日本の文化の一つに数えられると思うほど人気がありますが、國學院大学のホームページに以下の内容を見つけたので紹介します。



駅伝という言葉の根源は古く、「日本書紀」にもその痕跡を見ることができます。律令時代に唐の制度にならぬ取り入れられた「伝馬」や「駅馬」の制度がそれにあたります。馬を使い中継所となる駅を行き来し各地と情報のやり取りをしていました。鎌倉時代から整備をされている現在の郵便制度にあたる「飛脚」の制度などはそのなごりといえるかもしれません。 (中略)

駅伝には、また、各区間を1人で走る自分との戦いでありつつ、チーム一丸となり、「襷」を繋ぐため、体調が悪くなった場合でも必死で各区を走り抜けます。他人を傷つけることなく、1人1人がチームのために励む姿が、日本人の心の琴線に触れ、心を掴んでいるのでしょう。

目的地に情報を伝達するためには、誰一人走ることを止めるわけにはいきませんでした。その流れを引き継いでいる駅伝もまた襷をゴールに運ぶために自分の任された区間を必死に走ります。チームの全員が思いを一つに1分1秒でも速く仲間へ襷を届けるシーンが我々に感動と勇気を与えてくれるのだと思います。今年も駅伝シーズンが来ました。機会があればぜひ、選手の心一つにした走りを見てあげてください。きっと感動と共に何かを頑張ってみようかなという気持ちになるかもしれません。最後に、上中生全員も心ひとつになって、上中を誰からも愛される学校にしていくことを期待してやみません。